

皆て戦争の機關なるのに當りて、獨帝を殺んじ、
 り來國の紙中に、獨帝を殺んじ、及び大がかりに渡を求むるこゝ
 して經濟を科すべしとの論を明記。然れども、主權平等の原則より、法
 律上は各國の援助なしに、獨帝の國
 國家の責任は解除せられざるべ
 からず、聯合國は果して獨帝を自
 獨逸に代ふを甘受すべきか。
 五
 不利加四に達し又南洋より南
 洋群を包括し西は亞米利加南洋
 の遠く地中海方面に及び北は極
 座附近に至れり而して我海軍

聯合國の締約を要求するは其の所謂正當なる上に於いて、理由に據るものにあらずせんか。然るに、固くたる法律上、聯合國の締約を要求するは其の所謂正當なる上に於いて、理由に據るものにあらずせんか。然るに、固くたる法律上、聯合國の締約を要求するは其の所謂正當なる上に於いて、理由に據るものにあらずせんか。...

一、青島方面の作戦
大正三年九月四日、八月二日三官廳の大規模な作戦。...

二、海軍省発表
現下の社會問題
留學幸助氏講演
得べきである。若し然らずして今日之の部族主義の如く世間の思ひも、威嚇、威嚇、威嚇に憑りたらず、不相容なるものを見るに足らぬ。...

三、公金を遊蕩費
用したる同輩ある。十三年前、私が倫敦に在りし時、...

四、人民の富者に對する
敵愾は若し懸念して居る。希臘では僑居者、見識のある人、...

海軍省発表 三艦司令長官海軍中將加藤定
大正三年八月二十三日戰禍來帝の
有終する間防石兄丹後沖

現下の社會問題(七) て行く譯である。此故に私は金
の教育、戒金證等事業にも云ふ

[illegible]

主力は掃海艇の漸進に伴ひ、
除き協應し、九月二十八日、
▽理想とする者比し、
然るに無し云ふ有深且つ

實業界にしては基礎の固まつた
 貴族より嚴整の爲に、
 達成金會社に往くことを希望
 した。

師で、折角の時に熱した
 の會社から増殖云々好む者
 の識に來る、何等の執事も
 方へ逃げて、堀方が密々あ
 びて、事には、障を生ずる、代
 容易に見付かるゝ實に派

ない、このことであつた

▼私が十七歳の時、
 敬の牧師が二體君は何の
 に、牧師を離るるか、と問

「私は自分が何う斯うしよ
 は思はぬか、是からの活

に揚子江に於ける英國陸軍及び海軍陸戰隊を掃蕩して是て天下を指導するには孔子のよりも基督教の力が善からう

ふかいです。こ私かへる
 則は赤になつて怒つて、漆
 蠟の試験に落第したことがあ
 り、初志の青年時代には誰い
 音圖大なるを理想したるが、
 勿論當時に現今とは事異なり
 づつて居るが、更に音圖天下の
 心配なればならぬ。幸ひ此の
 を遂げ、建中が前進の如く戦
 はした。

は、
 取の。上下交利を始めて其
 には此事ではあるまいか。
 下に顧みずや旅旅のみの
 のの紹介でよい、さうさう
 韻た、起り来る社會問題と
 のの眼、實問題解決に止らな
 確的の云ふべき鑑し、
 方法、擧げれば其効果も明
 いに歸る。終)

をしたら、哭き殺すに部下
た、それは全く厚信の一策
た、或る日の事、眞平王が南
幸するに聞かや、庭前に新

水が満ちた。星の光が
 中空に高く輝いて上り下
 した。甲府へ移る主は其地
 人に怪しむ。彼の姫は何
 した。左の者は、彼れは
 其妹の衣を着て今矣
 處に落ちた。顔に赤粉を
 入に落し、髪を變へた。
 公子の妾を騙して居たが、
 はお前の仕度ならう。連
 て救つて來さ。命じたり
 が。大に喜びて早速來つて
 王の命を賜ふて無
 姫を助けた。其後春秋公
 は結婚したが、之が間も猶
 北下后である。
 夢の結果、妹が姉
 した結果、親戚に於け
 春秋公子に於ける御后と對
 一段に親睦が密く

[illegible]

歳末年始御贈答品
 愈々歳暮の必要が迫つてきました殊
 に日本内地へのお歳暮は貨物停滯の
 昨今なれば例年より少し早や目に
 お送りにならなければ折角の誠心を

<p>器</p> <p>具には</p> <p>朝鮮特有の 螺鈿漆器</p>	<p>甘</p> <p>黨には</p> <p>人蔘應用の菓類</p>	<p>漆器、陶器其他數百種の珍らしき朝鮮名産を取揃へ陳列有之候間御立寄り御高覽被成下度候</p> <p>猶内地へ御送品に對しては迅速可略を旨として荷造及發送の手續可仕候</p>	<p>海陽高麗絲素元 天日乾高麗粉白元 朝鮮鮮物產</p> <p>(海)</p> <p>海市商會</p>	<p>本店</p> <p>第一支店 京城本町二丁目 大邱支店 京城本町一丁目 東京支店 東京馬場橋南地 賣店 朝鮮ホテル内 工場 京城東四軒町 經銷漆器工場 京城黄金町三丁目</p>	<p>電話二五〇番 電報京城四八番 電話四四二番 電話基橋二〇九番 電話一一七〇八番 電話一〇六四番</p>
--	--	--	--	---	--

<p>珍らしき</p> <p>歳末年始御贈答品</p> <p>愈々歳暮の必要が迫つてきました。殊に日本内地へのお歳暮は貨物停滯の昨今なれば例年より少し早や目にお送りにならないければ折角の誠心をこめし贈物が時季を失します。</p> <p>賢明なる皆様方には最早や御贈答品は御決定になりました事と思ひます。屹度第一番に海市へ御下命になる事と御言葉のかゝるのを待つて居ます。</p>		<p>酒の肴には</p> <p>明太魚カラスミ 明太魚粕漬 明太魚糍漬</p>	<p>お吸物には</p> <p>鶴の味噌漬</p>	<p>德利盃には</p> <p>朝鮮特産の 漢陽高麗燒</p>	<p>料理器には</p> <p>朝鮮料理中の粹 神仙爐</p>	<p>器具には</p> <p>朝鮮特有の 螺鈿漆器</p>	<p>甘黨には</p> <p>人蔘應用の菓類</p>	<p>漆器、陶器其他數百種の珍らしき朝鮮名産を取揃へ陳列有之候間御立寄り御高覽被成下度候</p> <p>猶内地へ御送品に對しては遠路可憐を旨として荷造及發送の手續可仕候</p>	<p>本 店 京成本町二丁目 (電話二五〇番) 第一支店 京城本町一丁目 (電話一三四番) 大邱支店 大邱元町一丁目 (電話四四二番) 東京支店 東京市橋本區馬場二丁目七番地 (電話一七〇八番) 賣店 朝鮮ホテル内 (電話一〇六四番) 製造工場 京城東四軒町 經銷漆器工場 京城黄金町三丁目</p>
--	--	--	----------------------------------	---	---	---	-----------------------------------	--	---

「一ニ和議の主宰者格
補職首任、ランソニに
就任、就任後、ランソニに
て親しくした某氏は語
る、ランソニ氏は元來眼科で
蘭の非常な達した人だ
その謂はたは事實的であ
る、極めて明晰である、性質
極めて温和である、

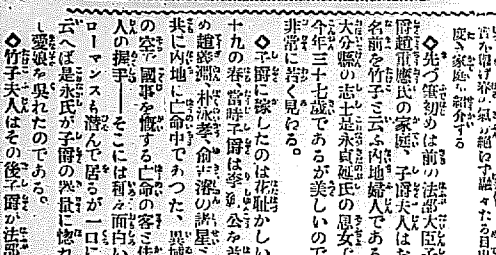
「嘗てアルメダは非死したとい
れてゐるが實はランソニは
死した、死したといふことは
確である、更に曰ふ、話は昔
車がランズ・ソニツ・眼に
ぶつた時佛蘭却却の後に死
一人が實に首相クマンク
人であつた事だ、此が諸君

に對しては金も惜まざ探してゐるのである。クレマ
ンソー氏はさういふことには
等しい。彼等は議會にあつて何事も知
り自分は最後の退却者の一人であ
る。泣いたさうである。クレ
マンソー氏はさういふことには

和田三造氏文相に建白
山本鼎氏は廢止論者
山本鼎氏は橋文

尚つて文展禁止の空白を感し
 云ふが一方文展開會前審査員
 職を辭した伊田三造氏が文展改組
 に關し中橋文相に提出した空白
 を近く公表して大に輿論を喚起
 ようとして居るが右につき某評

家は語る「山本氏が
 文展廢止案
 を文相



即死三名重傷數名
午前三時三菱製鐵所内爆炸

鐵道事務所附近より朝鮮工場に到
 近工事で岩石被覆に使用するもの
 搬送し内地人一名
 朝鮮人二名即死し重傷
 朝鮮人三名輕傷者
 石を出せり原因は不明なるも
 鐵道管内にてダイナマイトを

飛込むと思つた
木川訓導談
◆訓導の奉還を校長

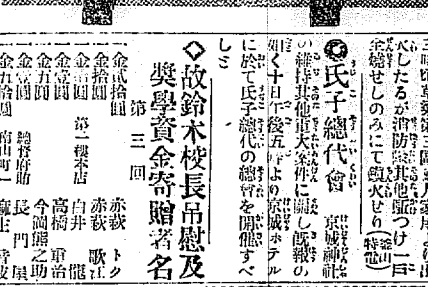
[illegible]

に内地に亡命中であつた、異
空で國事を慨する亡命の客ミ
ハの握手——そこには利々面白
ーマンスも潜んで居るが一口

に内地に亡命中であつた、異空で國事を憶する亡命の客ミハの握手——そこには利き面白一マンも潜んで居るが一口へば是永氏が子爵の熱心に物愛娘を呉れたのである。

◆竹子夫人はその後子爵が法

つて精巧なる製品を出して居る焼酎は



奉らんご決心して御眞影あるこの事
へ馳せ付けた時は既に紅蓮無かつた時
室を寢園に居た私は無あつた私は
で泰安室の扉を方一ばいこ聞いて一

るに、確たる火標が身に迫る。眼に入らぬ、其の中へものゝ網のめられた、御衣の袖のめられた、手に手や、飛び出した其隙、火標に觸れ、出會つたの下、衣に觸れ、出會つたの下、廣居訓に手被した而して、同時に一つの疑念が湧いて、

子夫人の貞淑な母は有名で、
小宮前李王嬪次官夫人と共に
出入して皇后に日本語を
學べせた。

[illegible]

●草梁の火事 九日午前
三時頃草梁第三區洋人家屋より出
火したるが消防隊其他駆つけ二戸

大したるが消防共也實つて一戸
 金にせしのみにて飢火なり (特也)
 氏子總代會 京都神社
 の總代其由來に據し該會の
 如く十日午後五より京都ホテル
 に於て氏子總代の總會を開辦すべ
 也
 ◇故鈴木校長吊慰及
 獎學資金寄贈者名
 第三回
 金銭拾圓 赤坂 トク
 金銭拾圓 赤坂 龍江
 金銭拾圓 第一樓木店
 金銭拾圓 高橋 重治
 金銭拾圓 今岡 順之
 金銭拾圓 長門 屋
 金銭拾圓 神寶 府
 金銭拾圓 南出 町
 金銭拾圓 長門 屋

金五郎	釘本樂器部店員一同
金參郎	水橋町
金三郎	南大・通
金參郎	商業會議所
金五郎	本町三丁目
金三郎	同
金三郎	三田政治部
金三郎	ツヤ
金三郎	市川蘇次郎
金三郎	中山秀一
金三郎	大村友之丞
金三郎	三田政治部
金三郎	ツヤ

金五圓	金壹圓	金貳圓	金叁圓	金肆圓
同熊平	同熊平	同熊平	同熊平	同熊平
某店員一	四川吉	廣川榮子	齊勝治郎	平賀孝二子
支店				
新町組合	久保田虎介	京都三井物産	東京鐵道會社	京坂電車會社
同	同	同	同	同
金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也
金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也	金拾圓也

◎開く古本講が読ましの紅の指し
なニツミツ(二等)

[illegible]

三三七〇 三三七三
三三七六 三三七九
三三八〇 三三八七
三三八八 三三九九

景品目録
特等一本
金千八百圓
勸業債券四枚
壹等洋筒
壹等銅筒
壹等大筒
壹等特筒

本町二丁目日聯合
二十月一十ヨリ
二十月一十デマ

景品大賣出

貳等十本
大茶見丸火鉢
上屏風水盤
毛布其他
參等座蒲團金庫
十等まで空鐵なし
來年の御進ためし景品で
金八千圓
御進物の
お方は誰?

御進物として最も
體裁よき便利な
商品券
大田中江吳服店共通
京城日の丸小間物店

五日の通り
例年の通り
一等四割より六等七引まで
時計眼鏡指輪寶金飾ダイヤモント下
地方御進物に對して御引の平均率を算出し御進物に換金製品は全三分引
宣統三年三月廿一日郵便局電二七七番振込東京三十四番
定價表進呈
中村眼鏡店

我國の所
永田秀次郎先生著
近藤彌吉の名筆也。立憲國民たる者切に一讀を告じ勿れ。

品質 銘酒瓶詰之一大權威
第一 全道各地之需要激增
SHIMAZU BRANDY
DAI NIPPON BREWERY CO., LTD.
大坂府堺市
宅合名會社
今川工務局

正十四金々ペン付
ワシントン萬年筆
薄利多賣主義
宮川大學堂
電話五九九

景品附
歲暮大賣出
十二月十日より三十一日まで
鶴屋
電話一〇五二番

歲暮大賣出と大景品付
日の丸小間物店
十二月十二日より三十一日まで

北島春石作 森田久畫

本城
 千代田印刷
 本城
 千代田印刷

坊ちゃん

娘ちやん

△への贈物は
何がいよいか

△がよいのか

△へは、
茶か米を半握に包んだ頭
てあせながら振くのです。振

・お渡ししかけて置きメリケ
はこず茶かして置き、卵の花
散し更に茶かして汁を少し絞
つて置きます。而して草の葉
茶かした米を半握に包んだ頭

●搗き方は、馬鈴薯は、
五厘重で四十四回です。

●糠米一升同卵の花五合（
五厘）で五十四回、米飯六
合六厘で略同回数す。

●眠りこけてゐる。
元々ほろろばせ、片まごほを寄ぎ
たなへに、

●見るものだらう、幸枝は少し口
足らぬものだらう、

●漆木やクリスマスの近づくにつれ

十三
 分
 如
 計
 科
 入
 入
 入
 入
 入

元山名産かきしほから特價提供
 近頃の藥店にて加味のお苗連れ
 御指名お求めのて上にお試され
 堅固以來多なる好評を博せる元山名産かきしほ
 ら諸物も各處の折衝にも拘らず、原城出張所開設一週午自
 の爲め牛内に限り左記特價にて提供可能回数不均多御
 文の程願上儀
 正山
 定価拾五圓
 特價卅參圓
 かきしほから

[illegible][illegible]

好く岸上の家
 から、小學校
 へ通つてゐた
 頃は、敵前も
 將來に希望を
 かけて親中の
 貧乏にもな
 つたれ、三年
 間、牛馬の手
 許に引取られ
 た後は、人々
 も世々も忍ぶ
 身なれば、ま
 づ自分達は立
 つて學校へも
 通はされず、
 怒りして夜分
 は一時間つ
 志保子が復讐
 してやるとい
 なつてゐる。
 けれど、先

庭實に師の如く羽子飼や羽根飼
や人形に心を引かれ、て子供を
喜ばせし贈り物にて、千代女なる事は凡
て人形を此上なく喜ぶものですか
らクリスマス等の贈り物としてこの
人形、最も續讀に思ひます。此
の人形、就て其

▲著物の 華かなる考への中
にしませう贈り物としては人形に著
物を着せて贈るのもよいですが、
十歳以下で針をもつ事の出来る子
供に綺麗な小切れて縫がきをつけて
て舞入にして、贈れば子形は服につ
ぎなでせう先づ四寸人形の著物は
五巾巾に長さ六寸の袖、裾までは
袖口五分、裾口四分、拾出一分五厘の

院長醫學士森 定吉

(森學堂改め
茶内科病院)

新刊紹介 劉介對著順

▲日蓮主義綱要全書
著者此書本多日蓮師が日蓮の
教義を一行法(一)龍溪及日蓮の
得する意義(二)佛(三)本教に對
する言説(四)一乘白蓮の出世
三百有餘篇別て多種類の僧侶に
て(五六七八九十)編纂(文庫)
土人教化綱目(山陽堂發行) 撰木
北澤國民學校長佐八十八錢車馬
▲田宮坊太師 重源 徳用初
撰著 田宮氏御傳記玉照寺の百寶
撰著四十回、八錢車馬の百寶
撰著二十回、八錢車馬の百寶
▲我々の世界(二) 林田南
を著した村松道平氏の 筆に
太氏を總務處長の極大の権限
雜費なり(二)九錢車馬の百寶
(國語出版社) (二) 朝日に
師範校の有給休暇の事(二) 朝日に
て名家 傳稱も亦頗る多し(二)

元横山兄弟商會出張所
 山崎 池尻 矢上 商店
 東京 城南 大門口 番町
 電話 二五二
 電話 二五二

愛する良人の爲に
 愛する良人の爲に

何と言つても **大學目薬** だ
 多年苦んだ眼病も大學眼薬を
 さして此通り立派に全快した
 悪性の眼病を斯くも手軽に治した
 大學の効驗は實際驚くの外はない



四 第 (白曜火) 早

の語が耳に
り、幸枝か
ら女子や悲味
の分からねぬ
を聞かざる
身を入れて敬
へる氣にもな
れず、まして
縫ひかけの針
仕事を初めせ
るのも懶々感
じられた。

やがて、修
身のお徳曹に
も備きたらし
く、幸枝は眠
さうに目をこ
すり出す。三見てころや、志保子
は押し入れから夜間の具を取りし
手早く壁紙に敷いてやつた。
『あ、今夜はもうお就眠よ』
座のこそを忘れないで。でも、その
邪氣には、志保子の悪い心も
幾分か慰められて、始めて縁物か
の節々、それも細々しい母に
てならないの。』
あまりに少女らしいからぬ母に

[illegible]

朝々必ず用つて居ます！
 眞女は其の良人のために穿くるに申します。一條たに
 亂れ髪、正しく着た衣服、ソシテ土地からの色の白
 さ美しきは何といふ氣持のあつた人振であらう。世
 間の噂に上る程のお方は皆其の本に初めて出来た評判の
 「美乳」の愛用者であります。美乳は白粉なまゝ異つて
 悪くらしき白さになく、粉削成材の特徵として皮膚の根
 本組織を美白ならしむるでから上品な白さこそ美し
 さを望まざる方は誰様でも美乳に傾くを仰げます
 又外出の時に姉妹美容科白美乳を一両角に買ひに
 れば一層水際立つたお化粧が、斯してさへ居らつし
 やれば良人の愛を常に一身に纏ひる事が出来ず、名
 實共にの家庭美容料。

お歳暮の御進物に付
奥様に御相談申上候
アレにせうか？コレニせうか？と
お歳暮の御進物に就てお考へ遊
ばす今日此頃ハタと思ひ當るの
差當りお正月のお料理は勿論、何れ
の御家庭でも年中重寶此上なしの
美味と滋養の調味料味の素に限りま

[illegible]

米價が當今下りきうにもないので正月の餅を焼くところの頭取の職が研究されて居るが東京製菓工業會では昨今生地に安価な餡料を配つて居る云々生菓子でなく煮菓子で居る云々生菓子でなく煮菓子で居る云々生菓子でなく煮菓子で居る云々

▲品鈴蜜餅の材料の値段は糯米一升五十三錢馬鈴薯百五錢糖六十錢大和町の住人

等トブを中に入れておいてから

本舖 大學白粉本店 矢野芳香園
 家庭では美乳。外出には純白美乳。
 (美乳) 瓶 貳十五錢 純白美乳 一瓶 貳十錢
 京 城 町 電話 一 一 〇 一
 二 宮 虎 王 醫 學 士

和綴入

時の毒

●鐵價は無相場
樂悲兩面の觀測

何に拘らず勢を觀察して買進も
下手は多く四五百圓の高値時
で買入るもの之手持とされる。
買手は三百四五十圓を圍むる日
の買入を、向うありて今日の所
が交戰國の貨物救済方面に向つ
多額を振向け可し云へ此に對
するものは、外大口取引は殆んど
絶無の姿なり斯る賣狀ながら故に
一定せる相場なるもの無し商情を
變ぜり而して其の取寄の願望に對し
たるものは、因天候市場上の不

争は最早終熄して休戦條約は成立の必要なきに至るべし而も現在歐
 州航路は復航に於て燃料缺乏の折
 せり今回の休戦は暫定的に非ず其
 實態に於て平和を窺見して是をな
 附して用紙紙腹の餘裕あるに依り